

神出学園と山の学校の統合および機能強化について

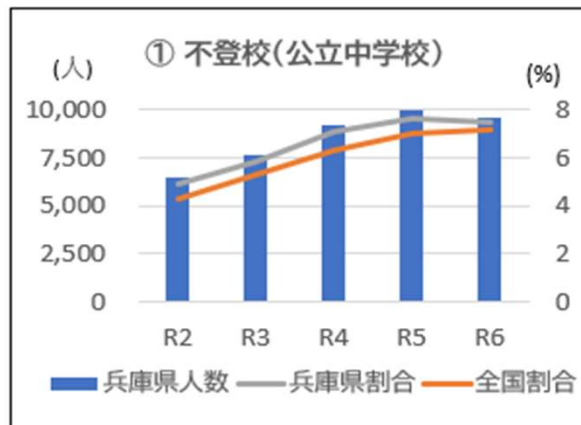
一人ひとりに寄り添い、次のステージへの移行を支える拠点「ステップアップ・ベース」への再整備

● 統合の背景

(1) 青少年の現状とニーズ

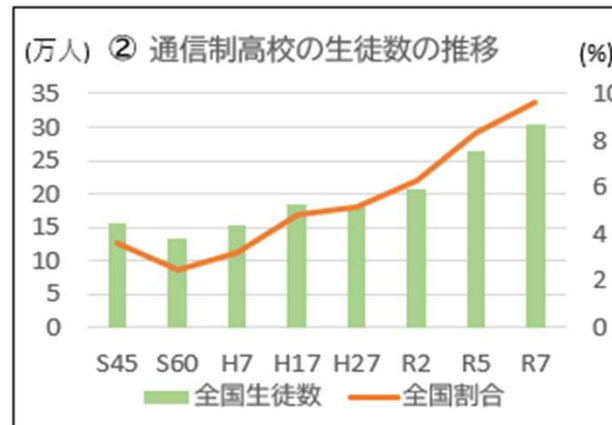
① 不登校の増加

- ・不登校児童生徒数が増加
- ・支援ニーズが拡大



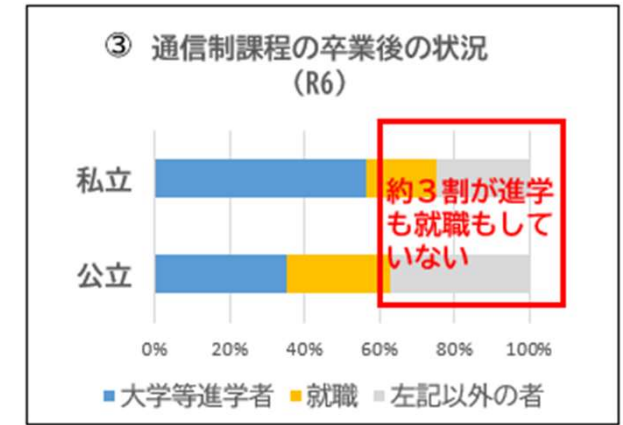
② 学びの選択肢の多様化

- ・通信制高校等への進学が増加
- ・多様な学びの場が拡大



③ 通信制課程卒業後の進路形成が課題

- ・約3割が進路未定
- ・次の一歩への支援が必要



(出典) ①県教委「兵庫県下の公立学校児童生徒の問題行動・不登校等の状況」②・③文部科学省「学校基本調査」

県内の不登校児童生徒は増加している。

多くの不登校経験者が通信制高校に進学しているが、卒業後の進路に課題がある。

現在の社会において、社会的自立に困難を抱える若者への支援に向け、必要な機能を効果的かつ持続的に確保していくことが求められている。

※神出学園・山の学校の修了生の約9割が進学又は就職

(2) 神出学園・山の学校の課題

① 施設の役割の変化

神出学園は「無職の青少年の支援」として平成6年に開設



山の学校は「問題行動のある青少年の支援」として平成5年に開設



現在は両施設とも不登校経験者への支援を行うという点で、役割の違いがなくなっている一方、現在の課題に対応した施設のあり方が求められる

② 入学者数の減少

特に山の学校の入学者数の減少が顕著。
一方、神出学園も減少はしているものの一定の利用がある。

	設置直後 (3年平均)	直近 (3年平均)	増減率
神出学園	29.7人	19.0人	▲31%
山の学校	19.7人	7.3人	▲63%

● 統合のねらい

- ◆不登校経験者支援という役割が共通化しつつある両施設を統合し、時代に即した支援機能の強化と持続可能な施設運営を図る
- ◆統合後の施設は、これまでから培ってきた両施設の強みを活かしつつ、「青少年の社会性やコミュニケーション能力、人間関係形成力等を養い、社会的自立を促す」新たな支援拠点である “ステップアップ・ベース” として再整備する

● 統合後の施設の特徴と機能強化

現在の神出学園施設にて、新たなプログラムの設定等により支援を充実、合わせて学舎や寮の改修を行う

- ・ 神出学園・山の学校が培ってきた強みを活かしつつ、時代の変化を踏まえた支援機能の充実
- ・ 現代の生活様式に合わせた寮の改修・プログラム充実に向けた学舎の改修
- ・ より多くの人を支援するため、対象年齢の拡大、柔軟な在籍期間の運用、通学制の一部導入

両施設が培ってきた特色

全寮制による共同生活

多彩な体験プログラム

専門職配置による支援体制

時代の変化を踏まえた支援機能充実

社会性・コミュニケーション能力等を養うための特色あるプログラムやカウンセリング機能の充実

将来の進路発見に繋がる体験プログラムの新設

通信制高校等との連携や大学生ボランティア等による学習支援

施設の機能改修

時代の変化を踏まえた施設の一部改修

対象・期間等の柔軟化

対象年齢の拡大

在籍期間の柔軟化

通学制の一部導入



次のステージへの移行を支え、
社会的自立につなげる拠点
“ステップアップ・ベース”へ



● 今後のスケジュール（案）

令和8年11月 神出学園令和9年度学園生募集開始
（山の学校の新規募集は停止）

令和9年3月 山の学校施設の利用休止

令和9年4月 神出学園新年度開始

令和10年4月 新たな支援拠点が本格スタート

